

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com 2011年3月号 (No.126)

電子書籍の最新動向⑨ ▲

—国内でも立ち上がりつつある電子書籍市場—

昨年は電子書籍元年といわれ、米国電子書籍市場の急成長を背景に、日本国内でもさまざまな動きがあり、家電量販店には電子書籍読書端末が並べられ、電子書籍配信サービスも本格的にスタートしました。

今回は「国内でも立ち上がりつつある電子書籍市場」についてです（当初予定していましたが「環境マークご利用の手引き」の続編は、後日の配信とさせていただきます）。

■米国の2010年電子書籍売上高は2.6倍に拡大、一般書籍の8.3%に急伸

(1) 米出版社協会 (AAP) は2月16日、2010年の米主要出版社による電子書籍の売上高が、前年比2.6倍の4億4130万ドルになったと発表しました。AAPが電子書籍に関する調査を始めた02年から07年までは、一般書籍の売上高合計に占める割合は1%未満でしたが、アマゾンが専用端末「Kindle (キンドル)」を発売した08年から市場が拡大し、10年は前年の3.2%から8.3%へと急伸しました。

米調査会社のディスプレイサーチは、アップルの「iPad」などタブレット端末の出荷台数が2010年の1885万台から2014年には9.1倍の1億7240万台になると予測しています。

(2) 米国でのアマゾンの成功要因はいろいろありますが、下記の2点が大きいといわれています。

① 端末・通信回線・コンテンツをパッケージ化したビジネスモデルを構築したこと。

② 紙の本なら通常20ドルする新刊を電子版では9.99ドルで販売し、電子書籍への誘導を図ったこと。

アマゾンだけで見ると、電子書籍の販売数はハードカバーでも文庫本でも既に紙の本を上回っています。

■国内でも電子書籍の配信サービスがスタート

(1) NTTドコモと大日本印刷は、今年1月12日から電子書籍配信サービス「2Dfacto (トゥ・ディファクト)」を開始しました。大日本印刷の配信サービス「honto (ホント)」を新会社に移管、ドコモのスマートフォンなど7機種を対象に配信を始めています。紙の書籍販売との連携では、丸善やジュンク堂など大日本系の書店と共通で使えるポイント制度を導入しました。

(2) 昨年12月10日にはシャープが多機能携帯端末「ガラパゴス」向けの配信サービス「ツタヤガラパゴス」を、ソニーなど4社がソニー製の電子書籍端末「リーダー」向けに配信する「ソニーストア」をスタートさせました。ソフトバンクもiPad向けの電子雑誌配信サービスをはじめているほか、アンドロイド端末向けのサービスも開始しました。日本国内でも電子書籍端末、配信サービスが本格的に立ち上がりつつあります。

日本国内の主な電子書籍配信サービス

参画企業	配信サービス名	開始時期	利用端末	作品数
大日本印刷, NTTドコモ	2Dfacto (トゥ・ ディファクト)	2011年1月12日	NTTドコモのアンドロ イド搭載端末7機種	2万点から今春に は10万点に

シャープ, カルチャー・コンビニエンス・クラブ	ツタヤガラパゴス	2010年12月10日	「ガラパゴス」とシャープ製スマートフォン5機種	約2.4万点
ソニー, KDDI, 凸版印刷, 朝日新聞社	リーダーストア	2010年12月10日	電子書籍端末「リーダー」	2万点
ソフトバンクモバイル	ソフトバンクブックストア	2010年12月17日	ソフトバンクのアンドロイド搭載端末7機種	約15万点
アマゾン	キンドル	日本向け未定	電子書籍端末「キンドル」	英文書75万点
グーグル	グーグル・イーブックス	国内は2011年中	PC, iPhone, iPad, ソニーの「リーダー」など	300万点

■大日本印刷・凸版印刷などが「電子出版制作・流通協議会」を立ち上げ

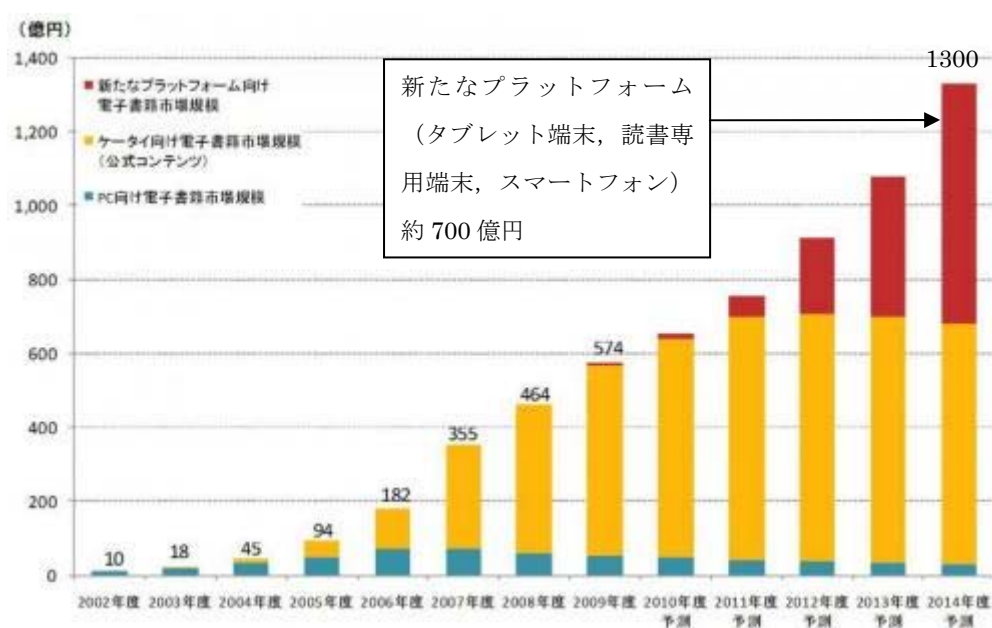
昨年7月大日本印刷と凸版印刷の印刷大手2社が発起人となり、89社が参加して「電子出版制作・流通協議会」設立されました。幹事は大日本と凸版、電通の3社が務め、参加企業には東芝やパナソニック、NTTドコモ、日本ユニシス、紀伊國屋書店、日本出版販売などが業界を超えて参加しています（2011年3月1日現在163社に拡大、当社も賛助会員として参加しています）。

「電子出版制作・流通協議会」は、電子出版の発展に貢献することを目的とし、米国のような垂直統合型ではない、日本独特の文化や商習慣にマッチした水平分業型のビジネスモデルを目指しています。なかでも日本語特有の組版データを生成する規格や仕様、流通形態の標準化を図ることが活動の中心となります。

詳しい取組みについては「電子出版制作・流通協議会」ページをご参照ください。

<http://aebs.or.jp/actionplan.html>

■日本の電子書籍市場予測



日本の電子書籍市場の予測 (インプレス R&D のページより)

インプレス R&D の調査では、日本の電子書籍市場規模は昨年比 23.7%増の 574 億円となっています。携帯電話向けが 89%を占め、そのほとんどがコミックとなっています。

今後は携帯からタブレット端末、読書用端末、スマートフォンなどの新しいプラットフォーム中心となり、2014 年には 1300 億円規模の市場になると予測されています。主な電子書籍の購読も「20・30 代の女性のが読むコミック」から、「ビジネスパーソンが読む一般書、雑誌中心」に移行すると予測されています。

詳しくは下記「インプレス R&D のページ」をご確認ください。

<http://www.impressrd.jp/news/100707/ebook2010>

次回は「電子書籍の標準フォーマット EPUB3、日本語に対応」についてまとめる予定です。

【発行】2011 年 3 月 16 日 三美印刷株式会社経営企画室

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-16-7 TEL : 03-3805-7675

URL : <http://www.sanbi.co.jp>